
イジケタ花

松浦 慶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イジケタ花

【Nコード】

N8276Y

【作者名】

松浦 慶

【あらすじ】

イジケタ花の独り言。

今日もまた始まった

絶望的な朝に目が覚めた

懐かしい夢への追憶

感情だけの舌触り

画面越しに喋る人

僕にはどうでも構わない

電車は決まった線路を

走って僕らを決まった世界へ

奇跡を夢見て軌跡を描けども
行きたい場所は分からない

どんな道も既にアスファルト
誰かが歩いた足跡が滲む

道端に咲いた一輪の花を見ても
何か感慨を抱く訳でもなく

この花よく知ってるな
というか既に見飽きたな

何を師とすればいいのだろうか
退屈な詩を書きながら思う常日頃

理想は理想の中にしか
存在しないだから理想

イデアとかユートピアも

二次元とかドラマの百億光年先

結論言っても

解決しないと

そんなの誰もが

知っている

君の為に僕がしてあげたこと

それは本当は自分の為

誰かに必要とされたくて

ああなんて不本意なんだろう

独りで泣いてた放課後

そうだその時あの花見たな

僕と同じ一輪の花

たった一つかれたって

たった一つ居なくなっただって

この世界は変わらない

それ程の価値なんだ

他の誰かが君を愛しますように

人は皆平等に与えられた
不平等を手にぶら下げて

理想と夢に背を向けて
現実と現でもがきながら

主人公になんてなれない
界限の中でか細い声で

小さな音で
終いに声は枯れて

早く水注いでください
誰か僕を愛してください

そう叫ぶことだけで
今は精一杯だから

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8276y/>

イジケタ花

2011年11月24日18時50分発行